基本理念
社員で考え社員のための労働運動を目指す、企業内労働組合
心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

JUSTICE
ジェイアール・イーストユニオン
JRTU　Ｊ　Ｒ　連　合

第 17 号

ジェイアール・イーストユニオン
発行者　菅野　一位
編集者　教　宣　部

〒105-0021
東京都港区東新橋 2-8-28
TEL(J R) 057-7333
TEL(NTT) 03-6452-9687

2016 春闘 ようやく 妥結

3月31日の春闘交渉で会社は回答を提示した。組合側は、集中回答日から大きくずれ込み、安全を共に担うグループ会社の賃金改善に踏み込めずいることに疑問を呈し、回答が世間から大きく遅れた理由を明らかにするよう要請した。会社は「人事賃金制度、2年連続の賃金改善による将来の経営に与える影響を、慎重に検討していた」と答えた。

7回の交渉を経たＪＲ東海は17日に回答を出し、ＪＲ西日本も16日に回答している。毎年、集中回答日からずれ込む会社に対し組合は、「世間はＪＲ東日本を注視している。今後の労務政策を案じる中で世間並みの回答時期があったのではないか」と苦言を投げかけた。ＪＲ連合も春闘コメントの中で、「過去最高益を更新し、他社と比しても強固な経営体力を有するＪＲ東日本が、昨年に引き続き、当該期間に回答を示さなかったことは極めて遺憾である」と述べた。

回答内容には一定の評価

回答内容については我々の要求と乖離はあるが、今次春闘のＪＲ他社、民間他会社の回答から見劣りするもではなく、当社の先行きを見れば一定の評価は出来る。夏季手当も昨年月数（2．87ヶ月）より月数は少ないものの、プラス2万円により若い社員に厚くしたことを評価した。

会社は、扶養手当については我々の主張する、子育て支援の観点から改善を図る必要性について、「会社も認識しており今後も議論する」とした。なお、第二基本給の廃止については「慎重に考えている」との見解を示した。

組合は一旦持ち帰り中央執行委員持ち回り協議により、これ以上の改善は望めないとして賃金改善、夏季手当について妥結した。

会社回答

1．新賃金…平成 28 年6月 24 日以降、準備出来次第清算。
○平成 28 年4月1日現在、満 55 歳未満の社員
・定期昇給を実施。昇給係数は4とする。
・賃金改善を実施。社員の基本給に対し所定昇給額の 10 分の1の額及び 500 円を加える。
○平成 28 年4月1日現在、満 55 歳以上の社員
賃金改善を実施。平成 28 年4月1日現在の基本給額に対し在級する等級により前号に準じて計算した額に賃金規程附則第3項を適用した額を加える。
○グリーンスタッフの基本賃金に 500 円加算。
○エルダー社員の精勤手当（夏季支給分）に 10,000 円加算。
○労働協約の一部改正で初任給額の 1,000 円加算。

2．夏季手当…平成 28 年6月 30 日以降、準備出来次第支給。
○基準額
基準内賃金 2.85 ヶ月分に2万円を加えた額とする。

ＪＲ他労組妥結概要（ ）内は回答日

ＪＲ西労組（３月 16 日）
純ベア 1,000 円（エリア手当分換算で 1,062 円）、特定診断利用補助の改善など
年間臨給 5.48 ヶ月

ＪＲ東海ユニオン（３月 17 日）
35 歳ポイント基準内賃金を標準乗数4相当の定期昇給、基準内賃金 1,000 円引き上げ、夏季手当 3.05 ヶ月分

ＪＲ九州労組（３月 28 日）
ベア 500 円（嘱託再雇用社員・パートナー社員 300 円）、嘱託再雇用社員に対する保存休暇の新設、夏季手当 2.58 ヶ月分

ＪＲ四国労組（３月 18 日）
定期昇給の確保、3人目以降の子の扶養手当増額など、夏季手当 1.87 ヶ月分

ＪＲ北労組（３月 18 日）
定期昇給の確保、55～59 歳の社員及びパートナー社員への夏季手当加算、割増賃金B単価の割増率改善、半休の適用事由拡大など

警察庁「治安の回顧と展望（平成27年版）」より

――第3巻では、全日本鉄道労働組合総連合会（以下「ＪＲ総連」という。）内における同派組織の存在に言及した12年10月付けの文書を再掲載するとともに、当時、ＪＲ総連内の一部の活動家がとった行動を批判した自派の正当性を改めて主張した。――

第3巻とは革マル派が刊行した『革マル派五十年の軌跡』で、同派創始者である故・黒田寛一前議長の未公開文書や過去の革命的共産主義者同盟（革共同）大会の基調報告を掲載。２０１４年６月の第１巻に始まり、昨年２月に第２巻、同９月に第３巻が刊行されている。

右記の「（平成）12年10月」といえば、ＪＲ総連傘下のＪＲ九州労（当時）から全組合員の８割にあたる７３７人が脱退、ＪＲ九州労組（ＪＲ連合）への加入を画策した時期と符合する。結局、組織的な加入を認められなかったＪＲ九州労脱退者は、ＪＲ九州ユニオンを結成し、ＪＲ総連に加盟する事となったが、一連の「組織破壊」を巡ってＪＲ総連とＪＲ九州ユニオンが対立、ＪＲ九州ユニオンは除名された。

しかし、その後のスト生活資金返還請求訴訟で、ＪＲ九州労の大量脱退は組織的な取り組みであったことが白日の下に晒され、ＪＲ九州労組への「潜り込み戦術」が明らかになったところである。

松崎氏著作集に当局も注目

――一方、革マル派が相当浸透していると見られるＪＲ総連及び東日本旅客鉄道労働組合（以下「ＪＲ東労組」という。）は、革マル派創設時の副議長である松嵜明元ＪＲ東労組会長（故人）が「日本労働運動に残した功績は大変大きなものであり、その業績を後世に伝えるため」として、27年２月から「松崎明著作集」（全８巻）の刊行を開始した。――

ＪＲ総連及びＪＲ東労組が松崎氏の著作集を刊行したことに警察当局も注目している様子が伺える。また、昨年 11 月号の月刊「治安フォーラム」でも、著作集の刊行を通じた若手組合員の取り込み、指導・教育などがＪＲ東労組の課題になっているとの指摘がされている。

ＪＲに過激派はいらない！

ＪＲ連合の一員として Ｖトライに参加

小田原城址公園で 清掃ボランティア活動を実施

私たち関東エリア地本は、３月６日ＪＲ連合神奈川県協議会の一員として、ＪＲ東海ユンオンが行っているボランティア活動「Ｖトライ」に参加し小田原城址公園の清掃活動を実施しました。

当日の小田原城は多くの観光客が訪れ賑わいを見せていましたが、城址公園内は比較的静かで、私たちは黙々と清掃活動を行いました。公園は日頃から地元の方々が清掃しているとのこと、城址公園を大切に思う気持ちが伝わってきました。私たちにも馴染みのある公園、少しでも綺麗にしようと植込みの陰や目立たない所も目を配り、ゴミ収取に取り組みました。

ＪＲ東海ユニオンの参加者は、ほとんどが若い社員であり、地本や支部の執行部も若手が担っています。みんなの笑顔が自然であり、何事にも明るく取り組む姿がとても印象的でした。これからも機会があれば参加し、若いパワーを感じながら活動につなげていきたいと思いました。

第2回中央委員会執行部答弁

総括答弁　国井事務局長

安全について、我々が模範を示さなければ今の若手はどうなっていくのか、この会社はどうなっていくのかという危惧がある。これは、頑固おやじになっていこうではないかということである。危ないことは危ない、駄目なことは駄目だと言って頂きたい。これが次代への継承になっていくと思う。

先日、東労組の方と話をした。私の経験談として、当時大阪行路に乗務している時、お客さまに「お前は、東日本から来ているから革マルだな」と言われ、「違う、私はグリーンユニオンだ」と話をしたところ、「安心して乗っていられるな」と言われた事がある。これが東労組組合員に伝えたいことである。ＪＲ総連・東労組には革マル派が深く浸透して、と指摘をされつつ東日本の中で一大勢力を誇る。これは大変由々しき事態である。

東労組の組合員とは、「そんなことがあるのか」「わかっている人からはそのように見られている」ということを話した。さらに、「私はこの会社を立派な会社、良い会社にしたいんだ。そして、みんなが幸せになるようにしたい」と言ったら、「先輩方からそのような話は初めて聞いた」というようなことを言われた。東労組は何をやっているのかと思う。

我々が東労組組合員に問いかけるのは、この会社を良くすること。皆が幸せになって、誰からも後ろ指差されることなく、この鉄道事業に邁進して、信頼される会社にしていこうという信念であろうと思う。我々は正々堂々とこれを主張しながら、運動を続けていこうではないか。

この委員会を機に、２０１６春闘、組織拡大・強化へ組織一丸となって取り組んで行こう。

大橋業務部長

安全に対する意識が高く、次世代の人たちに継承しなければならないという熱意が伝わり心強く感じた。電力部門での梯子の話だが、安全に対する認識について疑問があり、これは本部の交渉につなげていく。事故で亡くなったご遺族のことを考えると、普段の仕事は疎かにできない。そう思い日々の作業をすることで、気持ち面が変わってくる。会社は安全に対して立派な資料を作りながら、魂はどこに行ったのか。梯子の話はなぜ出てくるのか。ＪＲ東日本の安全を支える基盤になるところで、我々は改善したり、提起したりという姿勢を今後さらに強めてやっていきたい。

昨年７月に駅業務委託の方向性ということで、グループ会社の再編がされた。第一組合の交渉で営業関係では後手後手に回り、仙台駅委託についても本社・本部間で仕切ることにより、取り組みを本部がやっているというガス抜きにしか見えない。我々の業務委託への基本的な考え方は、効率性、生産性を上げて、サービス、付加価値を生み出せるかということ。仙台駅を委託することにより、品質やサービスはどのように上がるのか。昨年の６月にやった申５号、グループ会社と一体となった業務の効率化の申し入れを、再度やっていきたいと考えている。

びゅうの方向性は、東北にあるＶＴＳが商品の造成部門を請け負い、販売はびゅうプラザでいくものと思う。訪日外国人旅行センターが４月から仙台にできる。長野や新潟にも訪日外国人旅行センターは必要だと思うが、収支の問題がある。また、びゅうプラザのグリーンスタッフは、出向、転籍の就業規則はなく、そのままＶＴＳ行くことは出来ないので、委託についての動きは当面見えないと思う。

申の関係は、交渉の内容をどのように伝えていくか各地方に話をしている。ただ、８月に申を起こし、未だに交渉が開催されていない所はその都度話をしている。

経協などでの組合の主張は、安全について人への投資、教育をしっかりしなくては駄目だということ。今まで我々が培ってきたスキル、安全に対する考え方を若い人に継承するために、投資するようにと言っている。

マイプロは発表すること、件数を出すことが目的ではない。サービス品質改革、お客様の声をどう吸い上げて、何をしてほしいのかを考えるということ。まず活動ありきではなく、業務の効率性や働きやすさを作り出さねばならない。活動が逆に業務の阻害になっているのであれば、見直すために声を出していく。

三瓶教宣部長

ホームページを開設した。若い人が見ているという発言もあり、そういうホームページをつくらないといけない。皆さんからも意見があれば出して頂きたい。

教育について、若手に正しい会社観や組合観を持たせないといけない。若手のモチベーションが落ちている。それは会社として一番怖いことである。「イーストイノベーション」ということも提起している。意識をしっかり持たないといけないと思う。

斉藤政治・共闘部長

只見線を昨年視察に行った。復旧には85億円必要という試算が出されているが、それで済むのか。今バス代行を行っているが、本当に鉄道でなければダメなのか。地元自治体は鉄道でなければダメだと言っているが、地元の人にとって、どのような方向が良いのかということを考えていかなければならない。東労組もサークル協を使って鉄道での復旧を、ということを言っているようである。我々は我々として、地元の人が一番いいと思うことを取っていくべきだと思う。

池田組織部長

メール作戦について、対象者にうまく伝わっていないかもしれないが、一人でも二人でも会話し、メールも手段の一つなので、伝えたい内容を理解してもらい、組合とは何ぞやというところまで心を割って話せれば、拡大にもつながると思う。今後とも取り組みをよろしくお願いする。本部の方が力付けられるような発言も頂いた。１００％の力以上のものを出していかないと拡大は見えにくくなる。

秋山副委員長

分会の小さな集会でもいいので声を掛けて頂きたい。運動方針にも書いたが、我々の宝は皆さん一人ひとりであると思っている。その意味で、皆さんが働きやすい職場をつくっていきたい。一人ひとりの話をじっくり聞いて、運動の中心に据えて今後も進めていきたい。

技術継承は身近であり難しい問題だと思う。我々だけで解決しようとは思っていない。組織部で教育のあり方のイースト版（イーストイノベーション）を作ろうと提起した。他労組の皆さんにも入って頂きながら作っていきたい。

うるさいオヤジになるという意見を頂いた。本部としても賛成である。真意は今伝わらなくても、何年後かに伝わればいいのではないか。いま会社は危険な時期だと、会社自身も思っているのではないか。会社も思いつかないような事が日々発生していると思う。人の命を守る、仲間の命も我々の手で守るという気概を持ってやっていきたい。我々の運動の真意は、この会社が好きで、この会社をさらに発展させるという思い。その思いがある人が集まればいい。迎合ではない。それこそが本当の力である。

京浜４区の問題は３、４年も前から会社としっかり議論してきたにもかかわらず、地方に行くといつの間にか転勤問題になり、都市手当が給与につながるからこじれてしまう。労働組合が会社の最終形をきちっと見せないから、組合員が悩むのだと思う。我々が本来あるべき姿を若手に示してあげれば良いのではないか。

ホームページの活用についてはまだまだ不十分なところがある。反省に立って更新期間を短くしていきたい。メール作戦についても改善しながらやっていく。

国井事務局長

春闘について。係数に合わせると格差が広がる。春闘のベアは一人等しく３０００円頂きたいという思いが詰まっている。我々が係数にこだわることはない。

本来業務があってのマイプロということは当然だが、我々のスタンスはマイプロは否定しない。新しい人事・貸金制度の中で、労使とも納得しつつやってきたことと思う。現在、東労組はマイプロを一旦止めようという投げ掛けをしていると聞く。これは、第一組合として会社と向き合った中での選択なのかというのが我々の疑問である。本来業務が疎かになるのは本末転倒であるが、マイプロについて皆さんは精通していると思うので、積極的にやってもらいたい。

ＪＲ連合中山教育・広報部長

地方でＪＲ連合の旗を守って頂いていることに感謝する。少ない人数でＪＲ連合地協、県協、交運労協でも活躍頂いている。我々としては、そういった活動をこれからも支えていきたい。勉強会や視察だとか、そういったところに是非呼んでほしい。我々も行ってＪＲ連合の情報紙にも載せていきたいし、議員の皆さんにも伝えていきたいと思うので、我々を活用してほしい。

私たちは
次期参議院議員選挙候補の
かわい　たかのり　さんを
応援しています！